



平成 27 年度 学校 評価 表

志高く キラリ輝く 『多高生』～夢・汗・涙 “感動体験”～
「特性を伸ばし、目標を定め、自己実現のため日々努力する」

1 学校教育目標

くまもとの教職員像の教育行動指標である「認め・ほめ・励まし・伸ばす」を全ての教育活動の基盤とし、校訓「平和・勤労・進取」を背景に、社会人としての基礎をつくる。
そして、「志高く キラリ輝く 『多高生』～夢・汗・涙 “感動体験”～」のキャッチフレーズのもと、学校を人間成長の場と位置づけ、様々な「感動体験」を通し、「豊かな心」を育み、「生きる力」を身に付けさせる。
特に、生徒一人一人の教育的ニーズに応じて指導し、進路目標の達成のために学力向上を中心とした取り組みを実施するとともに、社会貢献できる人材の育成を図る。
併せて、「地域に根ざし、地域に開かれた学校づくり」を積極的に推進し、「地域から愛され、地域から信頼される学校」を目指す。

2 本年度の重点目標

1 求める学校像	2 求める生徒像	3 求める教師像
(1)一人一人の生徒のために職員が意欲的に働いている学校 (2)職員間のチームワークがとれる組織体としての学校 (3)教育のスペシャリストとして全職員が研鑽に励む学校 (4)「愛と熱と力」を求め合う潔とした学校	(1)基本的な生活習慣が確立できる生徒 (2)自ら意欲的に学ぶことができる生徒 (3)夢や希望に向かって努力する生徒 (4)「個」を大切に「公」も大切に生きている生徒 (5)地域を知り 地域に貢献できる生徒	(1)生徒一人一人を大切に教職員 (2)優れた実践力と指導力のある教職員 (3)常に学び続ける教職員 (4)憧れや夢を語る教職員 (5)地域(学校)を知り協力し、行動できる教職員

3 自己評価総括表

評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	9月経過達成状況	中間評価	改善方策	達成状況	最終評価	次年度への課題
学校経営	学校活性化	○生徒及び地域にとって魅力ある学校となっているか。 ○来年度の新入生を70名以上確保する。	○会議や事務を精選して、教職員が生徒に関わる時間を増やす。 ○中学生、地域の方と本校生が交流する機会を増やす。(学校行事の開放、ボランティア活動の充実)	○進路変更者は1人も出していない。 ○7月の中学生体験入学では264人の参加があり、大変好評であった。 ○町の行事に積極的に協力し、1学期、夏休みに延べ100人以上がボランティアに参加し、地域の方との交流の機会を多く持った。	B	○課題のある生徒を全職員で把握する生徒状況連絡会の充実やスクールカウンセラーの更なる活用を図りたい。また、個の事案に対して積極的に早急に対応する。 ○人吉路地地区での中学生保護者合同説明会の実施や中学3年生に向けてのホームページでの入試情報発信の充実へ努める。	○職員間で情報の共有ができ、個の事案に対して、校内の組織的な対応とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど外部組織の協力も得て対応した。しかし、年度末に進路変更をする生徒が2名いた。	B	○学校行事等を精選し、職員が生徒と向き合う時間を増やし、すべての生徒に対して、行き届いた指導を目指す。 ○引き続き地域との交流を大切にしたい。
	安全管理	○職員のやりがいを感じ、生き生きと働いている学校であるか。 ○学校の管理下で事故が起こらない環境が整っているか。 ○職員の不祥事が起きる土壌はないか。	○休職や長期の私傷病が1人も出ない。 ○職員の業務時間調査を通し、適正な業務負担となっているか確認する。 ○会議や事務の精選を図り、職員が生徒に関わる時間や教材研究の時間を確保する。	○休職や長期の私傷病が1人も出ない。 ○一部の職員の退勤時間が慢性的に遅い傾向にあり、業務負担の偏在化が見えてきている。	B	○スクールカウンセラーの更なる活用を図りたい。 ○運営委員会をおとし、各校務分掌における担当業務の見直しや業務の精選を促進する。	○業務時間の大幅な改善はなされていないが、スクールカウンセラーの活用や職員間の協力のもと、ストレスの改善と軽減に努めている。また、手続きの簡素化や会議等の精選により負担の軽減を図っている。結果として、休職や長期の私傷病は1名もでていない。	B	○休職や長期の私傷病を1人も出さないという目標は達成できた。しかし、体調に不安を抱える職員や勤務負担の偏在化が見られたため、全体のバランスを考慮し校務分掌を検討したい。
学力の向上	○各学年で、適切な内容及び分量の学習課題を課し、学習時間を増やす取組を積極的にしているか。 ○生徒が積極的に授業に取り組む環境作りと、教師の魅力ある授業展開がなされているか。	○1日あたりの平均家庭学習時間を、1時間以上確保する。 ○日々の演習、朝自習の課題の全員提出。 ○YEBISUゼミ出席率95%以上となる。 ○授業に積極的に取り組んでいる生徒80%、授業に満足している生徒80%以上。(生徒アンケート)	○家庭学習時間を記録し、統計資料を生徒に還元する。 ○日々の演習、朝自習の未提出者に対しては、課題内容理解のために、個別に指導する。 ○YEBISUゼミの日程を保護者に定期的に連絡し、協力体制をとる。 ○わかる授業の実践および教材研究の工夫に努める。	○1日当たりの平均家庭学習時間は4～7月で57.4分と目標には届いていないが、調査を重ねることに増加が見られる。 ○日々の演習、朝自習の課題は、ほぼ全員が提出できている。 ○第3回時点YEBISUゼミ出席率は95.9%で目標は達成できている。 ○1学期の授業アンケートより授業に積極的に取り組んでいる生徒92.4%、授業に満足している生徒93.2%と目標が達成できている。	B	○職員相互が戒め合い、高め合う職場環境を築く職員研修を計画的に実施したい。 ○不適切な会計防止研修を3学期実施する。	○職員の日頃の意識の高さと、定期的な点検により、小さな危険箇所の整備が良く行われている。	A	○耐震に問題がある箇所が上げられているため、工事等の計画が進められる。
	学習指導	○教師間の相互公開授業や、年2回の生徒を対象とした授業アンケート結果を踏まえ、授業の改善を積極的に行っているか。 ○授業に積極的に取り組む環境作りと、教師の魅力ある授業展開がなされているか。 ○各教科における研究授業、公開授業の実施計画を達成できたか。	○相互公開授業週間に年2回実施する。 ○生徒による授業アンケートを年2回実施する。 ○授業がわかりやすいと感じる生徒80%以上。(生徒アンケート) ○研究授業を計画的に実施する。	○6月に1回目の相互公開授業が実施できた。ほとんどの先生方に2回の参観を行っていただいた。 ○1学期授業評価アンケートを学期末に実施した。 ○授業評価アンケートより、授業がわかりやすいと感じる生徒85.6%と目標は達成できている。 ○呼びかけの成果もあり、1学期予定の研究授業は計画通りに行われた。	A	○増加が見られているので、現在の取組を継続したい。また、昨年度の反省から、3学年の2学期以降の家庭学習時間が減少しがちである。進路目標達成に向けた取組も学習と位置づけ、正確な調査を実施する。 ○日々の演習、朝自習に関しても現在の取組を継続する。 ○今後のYEBISUゼミの実施予定日を変更して保護者に配信するために、ホームページにも記載し呼びかける。 ○個々の生徒の満足度を上げるために、夏季休業中に教科会を実施し、授業改善の取組を検討した。	○1日当たりの平均家庭学習時間は60.7分と目標を達成できた。特に2、3年生の普通科で学習時間が飛躍的に伸びた。 ○日々の演習、朝自習の課題は、ほぼ全員が提出できている。 ○第9回時点(3年生は全10回終了)YEBISUゼミ出席率は94.1%で目標は達成できなと思われる。 ○2学期の授業アンケートより授業に積極的に取り組んでいる生徒91.1%、授業に満足している生徒89.5%と1学期を下回ったが、目標が達成できた。	B	○調査の継続とフィードバックで学習時間が増加したことも考えられるが、担任の生徒に対する取組が最も大きな一因であった。担任が生徒に学習の呼びかけをしやすい環境を整える必要がある。また、日々の演習や朝自習のような学校として定着してきた取組を深化させることも考えられる。 ○YEBISUゼミの出席率が3年生を中心に落ち込んだ。実施予定日の周知も2学期以降不十分であった。学力の向上のためにも、とにかく出席しないことには始まらないで、魅力あるYEBISUゼミの展開と、職員・保護者間の協力体制をさらに高めて行く必要がある。 ○授業に関しては大方満足しており、先生方の魅力ある授業づくりができてきているので、今後も継続させていきたい。

	評価の観点	具体的目標	具体的方策	9月経過 達成状況	中間 評価	改善方策	達成状況	最終 評価	次年度への課題
キャリア教育 (進路指導)	<p>○キャリア教育について、学習プログラムの見直しができているか。</p> <p>○学力向上や資格取得について積極的に取り組むよう意識付けを図っているか。</p> <p>○生徒の進路意識を高めるようなガイダンスやタイムリーな情報提供が行われているか。</p> <p>○生徒の進路希望を具体的に把握し、適切に進路指導ができているか。</p> <p>○保護者に対して進路意識を高揚できる手立てが図られているか。</p>	<p>○学習プログラムについて、生徒の実態に合っているか検討する。</p> <p>○入試や就職試験への対応だけでなく、入学後、入社後の生活を豊かに送ることができる学力や資格取得を目指す。</p> <p>○ガイダンスの時期や内容を見直す。また、キャリアアドバイザーや企業・各学校の情報の共有を図り、進路ニュースの発行を通じ、進路情報を提供する。</p> <p>○進路指導部による面談を行い、生徒の進路希望の把握に努め、担任・学年団との連携を深める。また、進路決定100%の達成を目指す。</p> <p>○保護者会でガイダンスを行うなど、学年や時期に応じた情報の発信を行う。</p>	<p>○「総合的な学習の時間」における進路学習を、より適切な時期に適切な指導を行うよう検討する。</p> <p>○「総合的な学習の時間」においても学力向上や資格取得に向けた取り組みを実施する。</p> <p>○生徒の実情に応じ、系統立ったガイダンスを計画する。大学等の出張講義を積極的に利用し、進路行事の様子を進路ニュースで発信する。</p> <p>○3学年では、学年全体で生徒の進路希望を共有・検討し、適切な対応を図る。</p> <p>○保護者会では必要に応じた資料の提供やガイダンスを実施する。また、進路資料「進取」を発行する。</p>	<p>○新企画として、1年生は「生徒理解調査」、1・2年生は「進路レディネス講座」を実施した。また、3年生は「マナー講座」を例年より時期を早めて7月に実施した。</p> <p>○資格取得に向けた取り組みは実施できていないが、学年と協力し、基礎学力の向上に向けた取り組みを朝の学習会で実施している。</p> <p>○年度当初に計画したガイダンスは全て実施できている。また、ガイダンス等の進路に関連する行事に合わせて進路ニュースを発行している。</p> <p>○3年生については夏休み中で生徒の進路希望を把握し、受験希望先を全職員で共有することができた。</p> <p>○5月に「進取」を発行し、7月に保護者同伴のもと3年生への進路ガイダンスを実施し、進路情報を親子で共有することができた。</p>	<p>○外部機関との連携を強化し、進路ガイダンスを通じた進路意識の高揚を図る。</p> <p>○就職支援団体や大学等のキャリア形成に関わる企画を各学年に案内し、キャリア形成につなげる。</p> <p>○3年生の小論文指導を系統分野別に実施し、個別指導を通して進路実現につなげる。</p>	<p>○1・2年生を対象に職業別進路ガイダンス、2年生を対象に系統分野別進路ガイダンスを実施し、延べ28校の講座を開講する中で、生徒の進路意識を高めることができた。</p> <p>○1・2年生は、3月に基礎学力の定着に向けた朝自習の達成状況確認のためのテストを実施予定である。</p> <p>○オープンキャンパス情報や大学によるセミナー・講演会情報などの案内を随時行い、生徒の自主的な参加を促すことができた。</p> <p>○小論文指導をはじめ、各教科において個別指導を実施することができた。1月末時点での進路決定率は93.8%であった。</p> <p>○「進取」の発行や進路ガイダンスを実施することができた。また、3年生の進路状況を他学年の保護者会において親子で共有する機会が得られた。</p>	<p>○キャリア教育の観点から、3年間を見据えた学習プログラムを再検証する。</p> <p>○資格取得と上級学校入試優遇制度に関する情報を収集し、長期的なキャリア形成につなげる。</p> <p>○各種進路情報の案内や進路ニュースの定期的な発行を行い、進路情報の共有化を図る。</p> <p>○夜間進学や自力進学等の各種進路情報の収集や、来校企業の情報を整理・蓄積する。また進路面談を通して生徒の進路希望を把握し、担任・学年団やキャリアアドバイザー、ハローワークとの連携を図る。</p> <p>○保護者会での進路情報提供や保護者同伴での進路学習などを実施し、保護者・生徒共に進路意識の高揚を図る。</p>		
	<p>○全職員で生徒の指導に取り組んでいるか。</p> <p>○地域や保護者、中学校等と連携して生徒の指導に取り組んでいるか。</p> <p>○多高生としての誇りを持たせる工夫を行っているか。</p> <p>○生徒が安心・安全な生活を送る体制づくりができているか。</p> <p>○多高生としての誇りを持った誇りを持っていく。</p> <p>○生徒が安心・安全な生活を送る体制づくりができているか。</p> <p>○多高生としての誇りを持っていく。</p> <p>○生徒が安心・安全な生活を送る体制づくりができているか。</p>	<p>○全職員による声かけと対話を通じ、多高生としての規範意識の醸成。「歩・広告塔」としての自覚。</p> <p>○指導を通じ、地域や保護者、中学校との連携を深め、皆で生徒を見守る体制づくり。</p> <p>○行事等を通じ感動体験の場の提供、「チーム多良木の一人」としての高い意識、誇りを育成。</p> <p>○二重ロック率の年間95%維持、交通安全教育、交通事故防止に努める。</p> <p>○携帯電話等の危険性について、様々な事例を繰り返し紹介し、生徒、保護者の理解をより深める。</p>	<p>○学期1回の全職員による登校指導、日常的登校指導、校内巡回指導を実施。</p> <p>○指導票による指導</p> <p>○列車補導や商業施設の巡回指導の実施。その際、警察や店舗、鉄道会社、町、中学校等の関係機関との情報交換に努める。</p> <p>○インターンシップ等様々な指導場面を通じた保護者や地域との関わり。</p> <p>○体育大会、木綿葉フェスタ等の行事や部活動を通じ、協力して得る感動体験の場の提供。</p> <p>○月1回の駐輪場点検、傘差し運転や無灯火、2人乗り等、交通ルールについての日常的指導。</p> <p>○携帯電話等情報通信機器利用の情報モラルに関する講演会、全校集会の実施。</p> <p>○生徒指導部だよりはほぼ予定通り発行できた。</p>	<p>○毎日の朝の登校指導、指導票による指導など多くの先生方の協力の下、実施することができた。</p> <p>○列車補導や夏期休業中の溜まり場掃除、花火大会等での補導など計画通り実施することができた。</p> <p>○生徒は落ち着いた生活を送っており、特別指導は1名であった。</p> <p>○交通安全の防止、犯罪被害の抑止を生徒に意識づけるために、二重ロック点検、交通安全教室、生徒会によって採択した携帯電話等利用のルールの再確認を行っていく。</p> <p>○生徒指導部だよりの定期発行を行い、情報発信を図る。</p> <p>○通学手段別指導、乗物乱用防止講話、非行防止講話を警察等と協力して実施することができた。</p> <p>○保護者に対して、情報通信機器利用の情報モラルに関する講演会を行った。</p> <p>○生徒指導部だよりはほぼ予定通り発行できた。</p>	<p>○毎朝の登校指導や指導票を用いた継続的な指導は、これまで通り続けていき、生徒への日常的な声かけを行う。</p> <p>○木綿葉祭やあひす祭り、強歩会等の行事を通して感動体験の場を提供し、多良木高校生としての帰属意識を高める。</p> <p>○2学期に入り中だるみをするものが多いよう、定期的な巡回指導を含め、生徒の規範意識を刺激していく。</p> <p>○交通事故の防止、犯罪被害の抑止を生徒に意識づけるために、二重ロック点検、交通安全教室、生徒会によって採択した携帯電話等利用のルールの再確認を行っていく。</p> <p>○生徒指導部だよりの定期発行を行い、情報発信を図る。</p> <p>○情報モラル教育講演会を1学期に、生徒・保護者を対象として実施することができた。</p>	<p>○毎朝の声かけ指導を継続して実施した。校内巡回指導、全職員での登校指導も計画通り実施できた。</p> <p>○指導票による指導が定着し、指導の累積により段階的指導を受ける生徒は減少した。</p> <p>○「多高プライド」を意識させ、帰属意識を醸成することで服装や挨拶等地域に信頼される行動をとるよう促した。</p> <p>○学校評価アンケートで、生徒、保護者とも約90%が本校の生徒指導について適切であると回答した。</p> <p>○特別指導は減少傾向にあり、今年度は年間2件2人(昨年同時期8件13人)と激減している。</p> <p>○「奥球座ハローラズ」の発足や防犯講話等、多良木署との連携を密にして生徒の安心・安全な生活の向上を図った。</p> <p>○情報モラル教育講演会を1学期に、生徒・保護者を対象として実施することができた。</p>	<p>○指導票による指導は定着したが、一部に指導票の抑止力が働かない生徒がみられる。効果的な生徒指導の方法についてはさらなる工夫改善が必要である。</p> <p>○携帯電話等の情報モラル教育については、専門機関のノウハウを活用し、講演会やワークショップを開催するなど、生徒だけでなく、保護者の注意喚起を効果的に行うようとする。</p> <p>○体育大会や木綿葉フェスタ、クラスマッチだけでなく、生徒が感動体験できる機会を数多く準備し、帰属意識を高める。「多高プライド」を意識させ、挨拶、服装、行動に自信が現れるよう促す。</p>		
生徒指導	<p>○人命教育や道徳教育のLHRを学期毎に委員会の計画のもと取り組んでいるか。</p> <p>○職員が生徒を指導する際、言動が人権に配慮したものとなっているか。</p> <p>○生徒に人権を尊重する意識が育っているか。</p>	<p>○各学期毎に学年に応じた内容の人権教育のLHRを設定する。</p> <p>○職員の人権意識や人権尊重の視点を配慮した言動を実践し、体言や生徒・保護者からの苦情をゼロにする。</p> <p>○本校の人権教育が充実しているという生徒75%以上、生徒の実態に即した人権教育が実践されているという職員が80%以上。</p>	<p>○年間計画に沿って各学年が取り組む。</p> <p>○教育支援部と連携して、生徒状況連絡会を実施する。</p> <p>○各学年団、進路指導部、生徒指導部、教育支援部等の連携を密にし、学校適応指導・就学保障に取り組む。</p>	<p>○人権講話(月足おきさん)では、命の重みを感じ取り、思いやりを持つことを再認識した。</p> <p>○3年は「言わない・書かない」の就職差別に関するLHRを実施。</p> <p>○教育支援部と連携して、生徒状況連絡会を実施した。</p> <p>○ほとんどの生徒が「掃除開始時間には取り組んでいるが、教人磨きをしているのが見受けられる。担任の見回り協力によりかなり改善できている。美化委員会は1サイクル等のエコ活動に力を入れている。</p>	<p>○2学期の人権講話ではハンセン病問題を取り上げる。全学年対象にする予定である。</p> <p>○職員に対し、校外研修への参加を呼びかけ、職員の人権意識の向上を図る。</p> <p>○人権教育推進委員会を定期的に開催し、生徒の状況や研修の報告を行った。</p> <p>○環境美化委員会や生徒会等の生徒自らの啓発活動を行う。</p>	<p>○1・2学期に人権講話を実施し、命の重み、差別について考えることが出来た。</p> <p>○肩の問題に関するLHRでは、「言わない・書かない」の就職差別に関するLHRを実施した。</p> <p>○人権教育推進委員会を定期的に開催し、生徒の状況や研修の報告を行った。</p> <p>○学校評価アンケートの結果、本校の人権教育が充実しているという生徒87%、生徒の実態に即した人権教育が実践されているという職員が96%の回答があった。</p>	<p>○来年度は「北朝鮮拉致問題」を人権講話で取り扱う予定である。</p> <p>○肩の問題に関するLHRで、「就職差別」「結婚差別」は取り扱ったが、「同和問題の歴史」を実施できていない。</p> <p>○今年度の職員研修は2月実施である。次年度は早い時期に実施したい。</p>		
	<p>○性教育の指導が健康活動を選択する能力の育成につながっているか。</p> <p>○安全で快適な教育環境を維持する。</p> <p>○健康的な食習慣を身につけさせるために、生徒の食生活の把握と、生徒・保護者への啓発活動が行われているか。</p>	<p>○性教育の講演会等を実施し、生徒の正しい性への理解を図る。</p> <p>○通常の取組姿勢の向上と効率化を図る。</p> <p>○生徒の食生活の実態をアンケートで把握し、改善の方向性を探り、学校・家庭・地域が連携して食育に取り組む。</p>	<p>○事前アンケート調査を実施し、生徒の実態にあった講演やLHRを実施する。</p> <p>○掃除開始時間の厳守と、美化委員会活動の活性化を図る。</p> <p>○食育指導の充実を図る。</p> <p>○文化祭で食育関連の取り組みを行い、啓発する。</p> <p>○郷土料理の料理実習を地域と連携し実施する。</p>	<p>○5月に全生徒を対象にアンケート、6月に外部講師の講演会を実施した。生徒の反応はどれも良く真剣に聞いていた。</p> <p>○ほとんどの生徒が「掃除開始時間には取り組んでいるが、教人磨きをしているのが見受けられる。担任の見回り協力によりかなり改善できている。美化委員会は1サイクル等のエコ活動に力を入れている。</p> <p>○家庭科と協力して教科指導においても食育の重要性を指導している。保健室でも基本的な生活習慣について保健指導をしている。文化祭では食パターを通して調達、調理・販売といった一連のシステムを学ばせている。家庭科の授業で地域の方の協力により郷土料理実習を予定している。</p>	<p>○意識の持続にはまだまだ結びついていないようなので、体育科と連携し、授業等で持続した指導を行う。</p> <p>○環境美化委員会や生徒会等の生徒自らの啓発活動を行う。</p> <p>○食生活については、家庭の協力が必須であり、学年懇談会やクラス便りを通して協力依頼をする。</p>	<p>○講演や特設LHRを実施し、保健の授業でも繰り返し指導を行うことで、生徒の知識習得と意識向上に繋がれた。</p> <p>○環境教育先達訪問や環境センター研修などを通して、委員・生徒会のリーダー力向上を図った。掃除の取組が顕著に優秀な生徒に与えられる「環境美化精励賞」に推薦される生徒が、2学期は増加した。</p> <p>○学年懇談会やクラス便りでの食育啓発はできていないが、教科指導においては十分に取り組んでいる。行事等における保護者連絡には盛り込むことができた。地域・人会の協力で郷土料理実習・食会を実施できた。</p>	<p>○SNS社会のリスクを理解できない生徒たちに対して継続的な指導が必要である。</p> <p>○広い校地、施設の快適な環境を維持するために委員会・生徒会を中心とした生徒主体の取組を模索する。</p> <p>○文化祭時の学科・教科発表の内容に食育を取り上げ、またPTA総会やオープンスクールなどの機会をとらえ体作りや健康増進のための食育を啓発していく。保健、家庭科の指導の中でさらに食育を充実させる。</p>		
健康教育の推進	<p>○性教育の指導が健康活動を選択する能力の育成につながっているか。</p> <p>○安全で快適な教育環境を維持する。</p> <p>○健康的な食習慣を身につけさせるために、生徒の食生活の把握と、生徒・保護者への啓発活動が行われているか。</p>	<p>○性教育の講演会等を実施し、生徒の正しい性への理解を図る。</p> <p>○通常の取組姿勢の向上と効率化を図る。</p> <p>○生徒の食生活の実態をアンケートで把握し、改善の方向性を探り、学校・家庭・地域が連携して食育に取り組む。</p>	<p>○事前アンケート調査を実施し、生徒の実態にあった講演やLHRを実施する。</p> <p>○掃除開始時間の厳守と、美化委員会活動の活性化を図る。</p> <p>○食育指導の充実を図る。</p> <p>○文化祭で食育関連の取り組みを行い、啓発する。</p> <p>○郷土料理の料理実習を地域と連携し実施する。</p>	<p>○5月に全生徒を対象にアンケート、6月に外部講師の講演会を実施した。生徒の反応はどれも良く真剣に聞いていた。</p> <p>○ほとんどの生徒が「掃除開始時間には取り組んでいるが、教人磨きをしているのが見受けられる。担任の見回り協力によりかなり改善できている。美化委員会は1サイクル等のエコ活動に力を入れている。</p> <p>○家庭科と協力して教科指導においても食育の重要性を指導している。保健室でも基本的な生活習慣について保健指導をしている。文化祭では食パターを通して調達、調理・販売といった一連のシステムを学ばせている。家庭科の授業で地域の方の協力により郷土料理実習を予定している。</p>	<p>○意識の持続にはまだまだ結びついていないようなので、体育科と連携し、授業等で持続した指導を行う。</p> <p>○環境美化委員会や生徒会等の生徒自らの啓発活動を行う。</p> <p>○食生活については、家庭の協力が必須であり、学年懇談会やクラス便りを通して協力依頼をする。</p>	<p>○講演や特設LHRを実施し、保健の授業でも繰り返し指導を行うことで、生徒の知識習得と意識向上に繋がれた。</p> <p>○環境教育先達訪問や環境センター研修などを通して、委員・生徒会のリーダー力向上を図った。掃除の取組が顕著に優秀な生徒に与えられる「環境美化精励賞」に推薦される生徒が、2学期は増加した。</p> <p>○学年懇談会やクラス便りでの食育啓発はできていないが、教科指導においては十分に取り組んでいる。行事等における保護者連絡には盛り込むことができた。地域・人会の協力で郷土料理実習・食会を実施できた。</p>	<p>○SNS社会のリスクを理解できない生徒たちに対して継続的な指導が必要である。</p> <p>○広い校地、施設の快適な環境を維持するために委員会・生徒会を中心とした生徒主体の取組を模索する。</p> <p>○文化祭時の学科・教科発表の内容に食育を取り上げ、またPTA総会やオープンスクールなどの機会をとらえ体作りや健康増進のための食育を啓発していく。保健、家庭科の指導の中でさらに食育を充実させる。</p>		

	評価の観点	具体的目標	具体的方策	9月経過達成状況	中間評価	改善方策	達成状況	最終評価	次年度への課題
いじめの未然防止 いじめの防止等	○全ての生徒が「いじめは決して許されない」ことを理解しているか。	○自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重する態度を養う。	○携帯電話等の利用マナーについて、生徒だけではなく保護者への啓発も行う。 ○学校行事等を通して、生徒同士の繋がりを強める。	○新入生に関する情報を中学校から引き継ぎ、全職員で共有した。 ○5月に保護者を対象に携帯電話等の利用マナーについての講演会を開催した。	B	○生徒の動向に注意し、学年集会や全校集会等での投げかけなど、定期的に注意喚起を行っていく。	○12月に生徒に対して携帯電話の利用マナーについての講演会を実施した。	B	○ほとんどのいじめ事例が携帯電話やSNSを介しており、その利用マナーについては繰り返し指導していかなければならない。
	○いじめの早期発見と、適切な初期対応がとれているか。	○「いじめ」による不登校・進路変更者を出さない。 ○全職員の共通理解のもと、徹底した支援と指導を行う。	○6月、11月にアンケートの実施。 ○各学年会で、生徒の状況についての確認。 ○校内巡回指導や個人面談の実施。 ○被害者への支援、加害者への指導を家庭、関係機関とも連携をとりながら徹底していく。	○6月に学校独自のアンケートを実施し、いじめの実態把握を行った。該当生徒へは担任が面談するなど迅速な対応をとった。 ○5月と7月に生徒状況連絡会を実施し、生徒の現状について全職員で把握した。 ○いじめ防止対策委員会を7月に実施した。	B	○アンケートや生徒状況連絡会だけではなく、日常的に生徒の様子や状態についての情報交換ができるよう、職員間の共通理解と結束を図る。	○生徒状況連絡会は予定通り実施できた。 ○いじめ事例の早期発見と対応により、継続的な行為はなかった。しかし、物品の破損に関して解決ができなかった。 ○学年会だけでなく、朝会等でも生徒の状況について意見交換し、情報を共有することができた。	B	○アンケートだけでなく、日頃の生徒の様子などから早期発見に結びつけられるよう、職員間の共通理解と結束を図る。
地域・家庭との連携	○OPTA会報誌「木綿業」や「多高ニュース」を通じて保護者や地域の方々に学校のPRに努めているか。	○OPTA調査広報委員を中心に会報誌「木綿業」の作成を行う。 ○「多高ニュース」は発行時期を考慮して発行し、中学校にも貼付を依頼し、学校のPR活動に努める。 ○HPIにより行事等の活動状況や今後の予定等を地域、保護者へ発信する。	○写真の管理を徹底する。また、レイアウトの方法等を検討する。また、複数の制作者が担当し、紙面の充実を図る。 ○記事作成から、ホームページ上への記載までの校内手順を改善し、より早く情報の発信を行う。	○「多高ニュース」は現在まで2回の発行でやや遅れている。PTA新聞については予定通り発行することができた。 ○1学期は、HP上への情報の記載が遅れることがあったが、手順を改善し、2学期の掲示は早く進んでいる。	C	○「多高ニュース」についてはできる限り月1回のペースで作成・貼付できるようにする。また、貼付方法についても考えたい。 ○校外の取組も写真が記載できるよう努めていく。	○「多高ニュース」を定期的に作成・貼付ができた。また、PTA会報の作成も調査広報委員会と連携することができた。保護者の90%がPTA会報やホームページが充実しているとの回答があった。 ○保護者への配布物の確認が、担任の協力でスムーズにできた。 ○校誌「木綿業」発行について、早期の準備・取組みが進んだ。最終的な発行まで順調に進めていきたい。 ○ホームページへの情報記載がスピード化した。	B	○本年度は「多高ニュース」の発行がやや少なかったため、年10回発行できるように努めたい。 ○「多高ニュース」や「PTA会報」を通じて学校行事への関心を高め、学校行事の保護者の参加率を上げられるように取り組みたい。
	○保護者への配布物がきちんと保護者の手元に届いているか。	○OPTA総会の出席率を90%以上とする。 ○OPTA活動に協力的であるという保護者を50%以上とする。	○出欠確認票の完全回収を図るため、提出状況を随時連絡できるようにする。 ○評議員会を活性化し、会員への意識向上の働きかけをお願いする。	○PTA総会の出席率が89.2%（総会十次席者集1回）、目標を達成することができなかった。 ○評議員会の出席率が高いが、PTA関係の研修等の参加者がやや少ない。	C	○今後の学校行事（木綿業フェスタ、強歩会、駅伝大会）の協力者数が23人で、昨年度よりも減少したが、委員の方々の協力により充実した会となった。 ○木綿業フェスタなどの学校行事では、母親委員会を中心に、昨年度よりも多くの保護者の協力があった。 ○「PTA活動が活発であるか」の間に92%がYesと答え、昨年度に比べて4%上昇した。しかし、「私は協力的であるか」の間にも51%がYesと答えており、まだまだ協力する保護者が特定しているように感じた。	B	○親睦のためのビーチボール大会を継続する。 ○OPTA総会への出席率90%を目指す。そのために、できるだけ早めに案内をする。 ○学校からの情報発信を密にして、保護者が協力しやすい態勢をつくっていく。 ○PTAの組織と学校側との活動の連携が一部に偏っている。進路指導部、生徒指導部、保健環境部など連携をとる必要がある。保護者による事業所見学、上級学校見学等も検討したい。	

評価基準 A:十分達成(4) B:概ね達成(3) C:やや不十分(2) D:不十分(1)

4 学校関係者評価
 日頃の登校風景や学校行事等での活動から生徒が生き生きと落ち着いて取り組んでいる様子が見える。生徒との会話の中に地域への感謝の言葉がよく聞かれるが、生徒が地域の期待を意識して行動している現状である。また、地域も生徒の活躍に元気をもらい感謝している。来校者に対する生徒の対応の様子など、日頃から生徒と職員の良い関係ができていると感じる。今後も小規模校である特性を生かして、生徒と職員の近い関係を築いて欲しい。いじめ等の問題でスマートフォンやSNSの使用が問題とされる中、保護者や生徒に対して外部の専門機関等を講師として招き、それぞれに講演をされているのは良いことである。しかし、利用に関する指導の中で、使い方の指導も大切であるが、表現力を身に付ける指導もお願いしたい。

5 総合評価
 今年度は、生徒と向き合う時間確保のために、教育課程の一部変更や職員朝会、会議等の実施に工夫をした。その成果として、朝の授業開始前の時間や放課後の部活動等の実施前の時間に、職員が生徒と係わる時間が持て、一人ひとりの生徒に丁寧に向き合うことができた。学校評価アンケートにおいても生徒・保護者からの理解が得られていると感じる。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家の協力を得て、生徒・保護者への支援が家庭と学校から地域へと繋げることができた。さらに、今年度も「地域に根ざし、地域に開かれた学校づくり」を推進する中で、体育コースや福祉教養コースの地域との交流授業、多良木小学校での本の読み聞かせや保育園・施設等でのボランティア活動、えびす祭りやサイテック祭等の町のイベントへの参加、書道部や美術部の地域での作品展示、英語部やビジネス部の地域紹介のパンフレットやマップ作成など本校開催の学校行事以外でも生徒が多くの「感動体験」をすることができた。平成28年度多良木高校最後の入学希望者が例年と変わらない人数であったことは、このような活動が地域に評価された結果であると思われる。学習指導や進路指導においては、生徒の基礎学力の向上から社会へ貢献できる力の育成を目指し組織的・計画的に取り組んできた。一斉指導から一人ひとりに応じた個別指導まで、学年や教科担当者の熱心な指導が見られた。その結果、3年生の進路決定は100%であり、国立大学への合格者も出た。しかし、授業評価アンケートからは、さらに授業改善をしていくことが求められている。スマートフォンやSNS等の使用について保護者や生徒それぞれに対して、専門家の講話の機会を持ったほか、「くまもと親の学び」プログラムを活用して、生徒会と保護者参加の研修会を実施した。これらの取組や日頃の職員と生徒との関係が「いじめ」の早期発見・早期解決に繋がっている。人権教育・環境教育については、講師を招いての講演、先進校への視察や生徒会の交流などの取組が、生徒の意識向上に繋がった。

6 次年度への課題・改善策

- ・ いじめの根絶 日頃の生徒との係わりから、生徒のサインを見逃さず、早期に対応する。また、スクールカウンセラーの協力を得てさらなる生徒理解に努める。
- ・ 情報モラル教育 携帯電話等の利用に係るマナー、モラルの向上に向け、生徒会を中心に生徒の主体的な取組を促進する。
- ・ 生徒指導 また、教科指導等により表現力の向上に努める。
- ・ 学習への取組 生徒や保護者に対してより丁寧な説明を心がける。「わかる授業」のための授業改善や教科、学年が連携して適切な課題の設定に取り組み、生徒が主体的に学ぶ手立てを図っていく。また、考査前の放課後における学習会を充実させる。
- ・ 主権者教育 18歳選挙権における主権者教育を年間計画のもと進めていく。
- ・ 職員の連携等 学習指導、生徒指導等、チームでの対応が求められる今、職員の一層の連携が必要であり、職員の意識の徹底を図る。また、行事の見直しや取組の改善を図り、職員の負担軽減に努めていく。